

28	生活文化スポーツ局	スポーツ施設の整備・運営
事業概要	<p>スポーツ及びレクリエーションの普及進行を図り、都民の心身の健全な発達に寄与することを目的としてスポーツ施設の整備・運営を行っている。</p>	
これまでの経過	<p>大会を契機にした施設整備 競技会場は、競技を行う選手にとって最高のパフォーマンスを発揮できる環境を提供するものであるとともに、運営がしやすく、観客が快適に観戦できる施設であることが重要である。特に、都が整備した新たな施設については、大会後も都民の貴重な財産として有効に利用されるよう検討の上整備された。</p> <p>1 アクセシビリティの確保 東京2020大会の競技会場となった都立スポーツ施設の整備・改修にあたっては、「東京2020アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、障害者や専門家の意見等を聴取する「アクセシビリティ・ワークショップ」を開催し、会場整備に反映した。</p> <p>2 再生可能エネルギーの導入 東京2020大会の競技会場となった都立スポーツ施設の整備にあたっては、「エネルギー基本計画」や「省エネ・再エネ東京仕様」等の全庁方針を踏まえ、再生可能エネルギーを積極的に導入した。</p>	
現在の進行状況	<p>1 スポーツ施設の戦略的活用 令和4年1月の「TOKYOスポーツレガシービジョン」において、「都立スポーツ施設の戦略的活用」について公表した。東京2020大会を契機に、新たな施設の整備や、既存施設のバリアフリー化等の改修、さらに、大会のレガシーを活かしたパラスポーツやアーバンスポーツ施設も誕生するなど、都立スポーツ施設をバージョンアップしてきた。これら、18施設のネットワークや各施設の特性を活かしながら、①スポーツでの更なる活用②多様な活用による新たな体験の提供③施設・地域との連携の3つの取組で、施設の活用を推進していく。</p> <p>令和5年度からは、18施設のネットワークを生かすため、「発信力の強化」「ニーズ対応力の強化」「一体的な取組によるスポーツ振興」の3つの視点で、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共催により、「都立スポーツ施設の連携促進事業」を施設横断的に展開している。</p> <p>2 東京辰巳アイスアリーナの整備</p> <p>(1)経緯 東京辰巳国際水泳場は、近接地に東京アクアティクスセンターが整備されることから、東京2020大会後の施設の機能について、東京都スポーツ振興審議会における有識者の意見等も参考にしながら検討し、平成31年3月、都内に施設数が少なく、利用ニーズが高いアイスリンク（通年）施設として整備することを公表した。</p> <p>令和4年11月には、施設を運営する際の指針となる、東京辰巳アイスアリーナ「施設運営計画」を公表した。令和5年7月から令和7年5月まで改修工事を実施する。</p> <p>(2) 指定管理者募集及び選定 令和6年7月、指定管理者の募集条件等を規定する募集要項等を公表し、同年8月に第1次審査、同年9月に第2次審査を実施し、指定管理者候補者を決定した。</p>	

	<p>(3)指定管理者の指定と協定の締結 令和6年12月、第四回東京都議会定例会の議決を経た後、指定管理者の指定を行った。令和7年3月には基本協定を締結した。</p>		
今後の見通し	<p>1 東京辰巳アイスアリーナ開業に向けたスケジュール ・令和7年9月 開業</p> <p>2 スポーツ施設の大規模改修等 老朽化した施設の改修・ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設への取組を行うとともに、利用者の利便性の向上、トップレベルの競技の観戦が楽しめる場としての整備を進め、大規模スポーツ大会等の開催にふさわしい施設へと再生する。実施に当たっては、「第三次主要施設10か年維持更新計画」（令和4年3月東京都財務局）等に基づき、引き続き計画的に改修・改築を行っていく。また、デフリンピック開催を契機として、大会会場となる都立スポーツ施設において光警報装置等のアクセシビリティ設備を整備する。</p>		
問合せ先	スポーツ推進本部 スポーツ施設部 経営企画課	電話	03-5388-2179